

代表的な誘導仕様基準（ZEH水準）の仕様

適合義務化には「誘導基準（ZEH水準）」クリアで先行しましょう！

Point

- ▶ 2025年の義務基準は、既に最低レベル、アピールにはなりません。
- ▶ 昨今の補助金は、ほぼZEH水準以上が必須です。
- ▶ 2030年には、ZEH水準適合が義務化予定です。

誘導基準（ZEH水準）を「仕様基準」でクリアする標準的な仕様（4地域～7地域）

断熱仕様	断熱部位	断熱仕様		適合基準
	天井	アクリアR45 170mm	熱抵抗4.5	4.4以上
	外壁	アクリアネクスト14K 105mm	熱抵抗2.8	2.7以上
	床	アクリアUボードピンレス20K 90mm	熱抵抗2.5	2.2以上
	玄関・UB基礎壁	押出法ポリスチレンフォーム3種 50mm	熱抵抗1.8	1.7以上
	玄関ドア	枠：熱遮断構造・戸：断熱フラッシュ構造	熱貫流率2.3	2.3以下
	窓	樹脂＋金属複合 Low-E複層ガス入り14mm	熱貫流率2.3	2.3以下

設備仕様	設備	設備仕様	適合基準
	LDK冷暖房	エアコン 区分(い)	区分(い)必須
	他居室冷暖房	エアコン 区分(い)	区分(い)必須
	24時間換気	壁付け第3種換気	壁付け2種又は3種
	給湯器	エコキュート JIS効率3.3	JIS効率3.3以上
	ふろ機能	追い焚きあり	追い焚きあり必須
	給湯配管	ヘッダー方式13A	ヘッダー方式13A以下必須
	浴槽	高断熱浴槽	高断熱浴槽必須
	浴室シャワー節湯	手元止水＋小流量吐水	手元止水＋小流量吐水必須
	照明	全てLED	全てLED必須

この仕様なら、どんなプランでも
「誘導仕様基準」をクリア！

ZEH水準
よし！！





仕様基準はオーバースペック？

比較 ①



こんな風に思っていないですか？

「仕様基準」で、
かなり余裕を持たせてる
って印象だね？

無駄に良い性能に
なっちゃうんじゃないの？

それじゃコストが
かかっちゃうじゃん？



「代表的な誘導仕様基準の仕様」が標準計算でどんな数値になるか、
いろいろなモデルプランで検証してみました！

検証 Point

- ▶ 標準計算でUA値0.6以下、削減率20%以上でZEH水準適合です。
- ▶ 一般的なZEH仕様なら、UA値0.55～0.60、削減率25～35%が標準的に見られる数値です。
- ▶ 標準計算は建物によって数値の変動が大きく、同じ仕様でも計算するまで適否が分かりません。

モデルプラン01

総2階プラン

標準計算ルート

UA値

削減率

0.58

4地域

25%

5地域

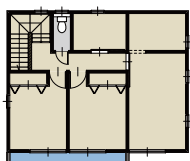
29%

6地域

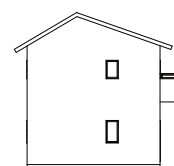
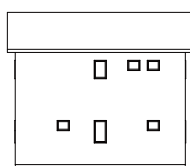
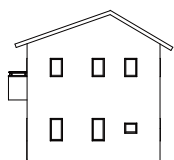
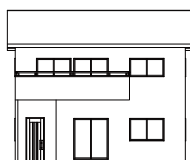
33%

7地域

38%



階数：2階建
延床面積：102.52㎡ (30.95坪)
開口比率：約7.6%
主たる居室：32.81㎡ (32%)
その他居室：34.61㎡ (33.8%)
省エネ計算面積：102.52㎡



省エネ計算メモ：
総2階のプランです。
下屋のあるプランに比べ、壁の面積比率が高くなります。
壁は断熱材を壁の厚さ以上に厚くできないため(充填断熱の場合)、計算では断熱性能が若干不利になります。

ZEH水準を適度にクリア！



仕様基準はオーバースペック？

比較②

ZEHを
クリア!!



モデルプラン02

LDK大きく目プラン

標準計算ルート

UA値

削減率

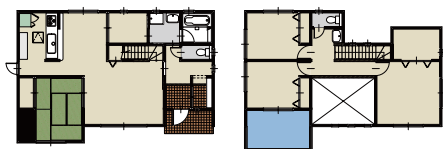
0.57

4地域 21%

5地域 29%

6地域 33%

7地域 38%



階数:2階建
延床面積:119.25㎡(36坪)
開口比率:約7.7%
主たる居室:55.48㎡(42.9%)
その他居室:42.51㎡(32.9%)
省エネ計算面積:129.18㎡



省エネメモ:
リビング階段、LDK上部に吹き抜けがあり、「主たる居室」(LDK)の面積が広めになるプランです。主たる居室が広いほど、削減率が不利になる傾向があります。

ZEH水準を適度にクリア!

モデルプラン03

小規模平屋プラン

標準計算ルート

UA値

削減率

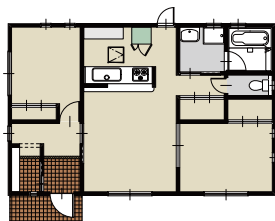
0.55

4地域 22%

5地域 24%

6地域 29%

7地域 33%



階数:平屋
延床面積:63.76㎡(19.25坪)
開口比率:約6.7%
主たる居室:24.84㎡(39%)
その他居室:18.77㎡(29.4%)
省エネ計算面積:63.76㎡



省エネメモ:
小規模な平屋のプランです。断熱材を厚くできない壁(充填断熱の場合)の面積比率が二階建・三階建に比べ小さくなるため、断熱性能が比較的好くなる傾向があります。逆に階段や廊下面積が少なくなる分、居室面積の比率が大きくなり、削減率は不利になるようです。

UA値は若干オーバー、削減率は若干低め



仕様基準はオーバースペック？

比較③

気になる
UA値



モデルプラン04

総3階建てプラン

標準計算ルート

UA値

削減率

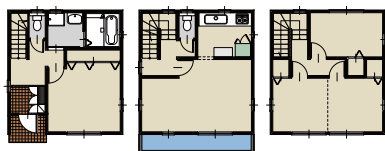
0.59

4地域 25%

5地域 30%

6地域 33%

7地域 37%



階数:3階建

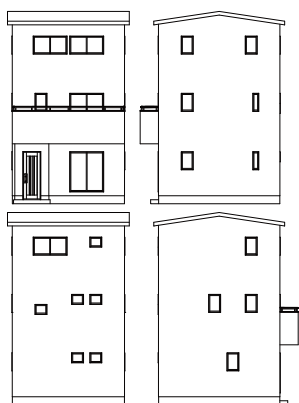
延床面積:95.21㎡(28.74坪)

開口比率:約7.5%

主たる居室:24.43㎡(25.7%)

その他居室:35.61㎡(37.4%)

省エネ計算面積:95.23㎡



省エネメモ:

総3階建てのプランです。総2階より更に壁面積の比率が大きく、断熱性能が不利になります。そのため、窓面積を極力小さめにしています。太陽光発電を搭載する場合は設置可能な枚数に限界があるため、リビング階段や吹き抜けを避けて「主たる居室」の面積を抑える必要があります。

UA値がZEH水準ギリギリ。窓面積によってはかなり危うい

モデルプラン05

窓小さめ 断熱強化プラン

標準計算ルート

UA値

削減率

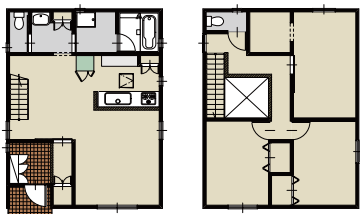
0.52

4地域 23%

5地域 28%

6地域 34%

7地域 40%



階数:2階建

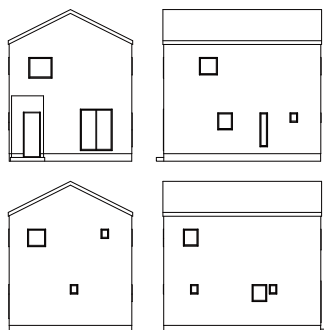
延床面積:99.37㎡(30坪)

開口比率:約4.5%

主たる居室:48.86㎡(47.6%)

その他居室:35.61㎡(34.7%)

省エネ計算面積:102.69㎡



省エネメモ:

できるだけ良い断熱性能を出せるよう、窓を極力小さくして「開口比率」を少なくし、G2やG3を目指したプランです。窓からの熱の出入りは、壁に比べ3~5倍にもなるため、窓面積は建物の断熱性能に直結します。標準計算で希望のUA値をどうしても達成できない場合は、窓面積を小さくすることもご検討ください。

UA値がオーバースペック



仕様基準はオーバースペック？

比較④

気になる
UA値



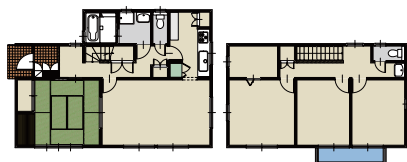
モデルプラン06

事業者向け モデル住宅

標準計算ルート

UA値

削減率



階数:2階建
延床面積:120.07㎡(36.25坪)
開口比率:約9.5%
主たる居室:29.19㎡(24.3%)
その他居室:49.69㎡(41.4%)
省エネ計算面積:120.08㎡



省エネメモ:
省エネ計算講習会等で使用される
参考プランで、開口比率が若干大き
目なこと以外はごく標準的な2階建
でのプランです。

0.60

4地域 26%

5地域 31%

6地域 34%

7地域 38%

UA値がZEH水準ぴったり！削減率も適度

モデルプラン07

省エネ 講習会モデルプラン

標準計算ルート

UA値

削減率



階数:2階建
延床面積:113.44㎡(34.25坪)
開口比率:約9.5%
主たる居室:28.16㎡(24.1%)
その他居室:47.41㎡(40.6%)
省エネ計算面積:116.77㎡



省エネメモ:
省エネ講習会の計算演習テキ
ストで使用されているモデルプ
ランです。開口比率が若干大き
目で、形状が少々複雑ですが、
標準的なプランです。

0.61

4地域 25%

5地域 29%

6地域 33%

7地域 36%

なんとUA値が不適合！「仕様基準」の方がロースペック